農村指道

柑橘類の供給季節について

臺灣に於ける柑橘類の栽培はナカ〳〵盛で、品種も色々あり、その産量も多いが、用つた事には此の果物の市場に供給できる期間が極めて短い事である、その上に大部分の柑橘類が同時に成熟するので、季節になると市場に溢れるぐらい出廻り、栽培に從事してゐる農民達は折角の果物を安く賣る様な結果になる。

そこで何とかして柑橘類の供給季節を長くする方法は無いであらうかと云ふ問題が起きる。この問題の解決は栽培に從事してゐる農民にとつて大切である丈でなく、恐らく多くの果物愛好家も望んでゐる事であると思ふ。

現在全省的に最も多く栽培されてゐる柑橘類は、ザボン（柚子）、椪柑、桶柑の三種である。ザボンは大體九月に成熟して、その供給季節は三箇月を出ない。椪柑は十一月内外に成熟して、供給季節は僅かに六十日から七十日、桶柑は成熟期が少し遲いが、ヤハリ供給期間が三箇月である。この様に臺灣に於ける柑橘類の季節は大體十月、十一月、十二月と翌年の一月に集中されて居り、又その大部分が貯藏に耐へないものなので、本省の柑橘類の期節は僅か四箇月しか無い事になる。

では柑橘類の供給季節を長くする爲には何んな方法があらうか？。誰にでも思ひつく事であるが、成熟期の違つた品種と、貯藏に耐へ得る品種を選んで栽培する事である。參考までに述べると成熟期の早いものには紅柑、レモンなどがあり、成熟期の遲いものには、ヴアレンシアオレンヂを選ぶと良く、またワシントンネーブルオレンヂ、雪柑、廣柑などは貯藏に良い。故に柑橘類を栽培して居られる農民、殊に彰化縣以北に居られる方には、桶柑、ザボン柑の外に成熟期の違つた品種と貯藏に耐へ得る品種を早く植える事をすゝめたい。

果物の季節が來て、一時に柑橘類が出廻ると、當然その値段は安くなる。これは農民にとつて非常な不利であるから、需要に應じる様な合理的な貯藏の方法が必要になつて來る、貯藏の方法にも種々あつて、自分の栽培してゐる柑橘類にどの様な貯藏法を用ふるかは各地の園藝專門家に指導して頂けば良い。

石灰窒素は土壤を悪くするか？

石灰窒素（鳥肥）はその使用法が少し面倒なためか、案外多くの農民がこれを使ひたがらない。然しこれは施用法が良く解つていないからであつて、その證據には、去年農林當局と農復會の援助と指導とによつて、全省各地の水田、茶園、パインナツプル園、バナナ園、柑橘園などに於いて石灰窒素の模範的施肥を行つた時などは、その結果が非常に良好で、それからは指導を受けた農民達の石灰窒素に對する見方が一變し、安心して使ふ様になつた。

それ計りでなく、この模範施肥の成功によつて、他の農民達も進んで石灰窒素を使ふ様になり、その成果も非常に良かつたとの事である。

然し農民たちの恐れる理由はもう一つある。それは、石灰窒素施用の結果は良いかも知れないが、土壤に對して悪い影響を果して及ぼすあへぼすとの事である。

この様な石灰窒素恐怖感にとらはれてゐる農民諸君に、こゝでハツキリ斷言したい事は、石灰窒素は土壤、作物に對して決して悪い影響を與へないと云ふ事である。

試驗によつて今まで解つた事では、石灰窒素は次の如き他の肥料に無い效果を持つてゐる。（一）酸性の土壤に石灰窒素を施すと、土壤内の酸度を少くして農作物の生長を促進する。（二）石灰窒素は分解すると殺菌の效果のあるシヤーナマイドガスを發生するため、基肥として施すと土壤内の病菌蟲を驅除する。（三）堆肥と共に施すと、石灰窒素、堆肥の兩方ともその肥效を增す。その理由は、石灰窒素は堆肥の肥分を分解すると同時に、堆肥は石灰窒素の肥分を吸收して雨が降つても容易に流失する事が無いからである。（四）石灰窒素は遲效性の肥料であるので、多年性の作物、例へば茶パイナツプル園に施すと肥效が長く保つため作物の生長に良い。（五）石灰窒素を混ぜた堆肥を、肥分の流れやすい砂質の土地に施すと土壤を良くする。

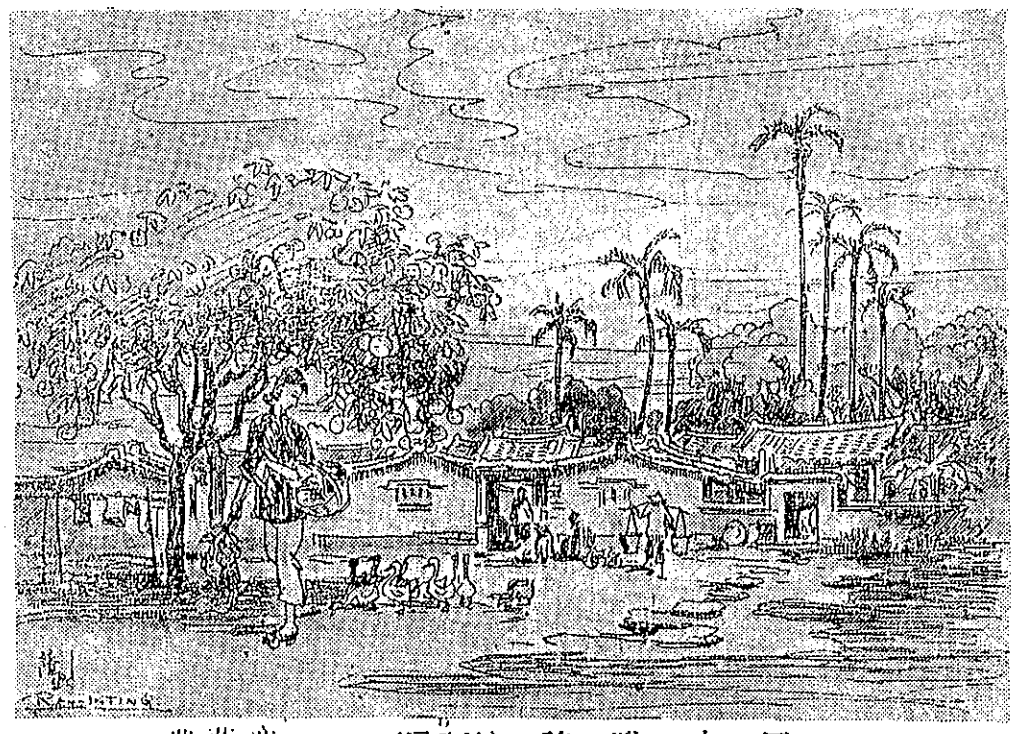
以上述べて來た所によつて、施用法さへ間違へなければ石灰窒素は土壤に對して悪い影響を及ぼさない事がハツキリ解つた事と思ふ。要するに物は使ひ方一つで、便安でさへ使ひ方が悪い時には結果が良くない。

裏作小麥栽培法

一、種播きの時期

臺灣の裏作小麥は第二期作水稻の收穫を終へて、翌年の第一期田植えまでの約四箇月間の水田休閑期を利用するから、前後の水稻によつてその種播きの時期が制限される。その外、栽培する小麥の特性、氣溫、降雨量などの各條件も考慮に入れなければならない。

即ち播種時期は過ぎる



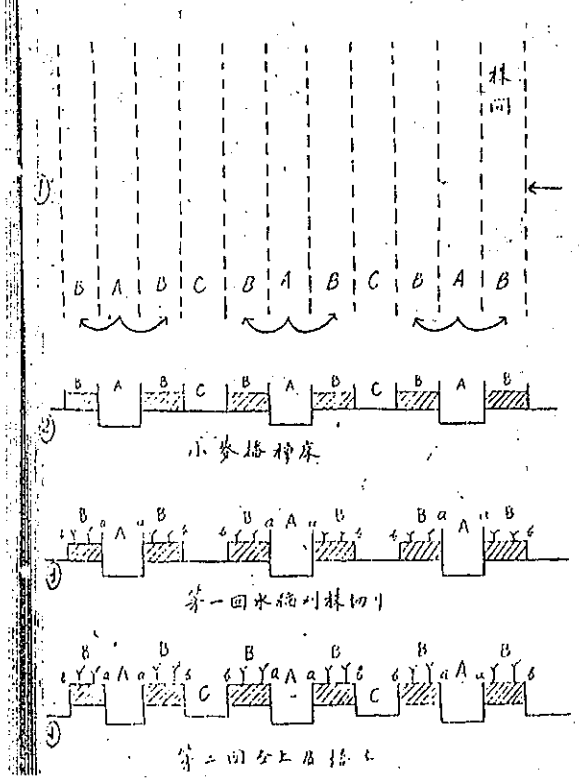
田園歌庄田（第八回）……蘆陰

前面——柚旦文機一——樹仔青枝七面後

娘仔歡喜挽一粒三——婆姑大送要粒一——二粒要送姑丈

二、種播きの方法

從來行はれている小麥の畦幅は三—六臺尺もあつて、少し廣過ぎる。即ち小麥は、幅一臺尺—一、二臺尺の畦に、五—七寸の條播をするか、又は畦幅を一尺七寸内外に整地して、この上に撒播した方が良い。種播きにも、耕仔法、整地法、不整地法などあつて、その何れを選ぶかは土地の條件によつても異るが、十月中に收穫が可能で、灌漑の便のある地域は整地播きとなるが、



1. 整地播…水稻の收穫が終つたら、すぐに地面を鋤起し、刈耙、手耙などで土を充分に碎いて、幅一尺七寸位の畦を作り、畦と畦との間に四—六寸の淺い溝を掘る。種播きの前に施肥全量の半分を基肥として施し、攪土器で土を軟くしてから撒播する。その後、土糞または堆肥を甲當り約一萬斤施して種子を被覆する。そして即刻排水する。（この場合、種子が浮き上がる事があるから、種を播く前に二—三時間水に漬けておくと良い）發芽後の生長の激しい時期には、土地の乾燥程度に應じて、時々灌水を行ふ事が大切で、殊に雨の無い時は十日毎に一回位は行ふべきである。

2. 不整地播（圖參照）…この方法の目的は、水稻收穫後できるだけ早く種播きを始め、また勞力の一時的集中を防ぐ爲である。先ず水稻收穫後、圖①のAの如く株間四條（三條隔）ごとに百足犂又は鍬で條間を深さ二寸位に掘り起して排水溝を設け、小鍬で其の土を細く碎きながら兩側の條間に積み上げて播畦を作る。（圖①、②參照）次に整地播と同方法で種播きを行ひ、その上に被覆する。

其の後、五—十日位經過したら、小溝（圖③、③のA）に面ない稻株（圖④のb）を刈り取り、直ちに灌漑する。種播きの後五—二十日したら追肥を行ひ、時に小溝に面して殘存してゐる株（圖③のa）を刈り取り、然後に小溝を設けなかつた條間（④のC）の土を兩側の畦に積みねて培土をしつつ小溝を設け、畦と小溝とを一條おきにして、最初に設置した小溝の土をスク上げて小麥株に培土し、然る後灌漑する。

3. 耕仔播…小麥の種播きをめる五、六日前に排水を行ひ、その株間を一條ごとに淺く打ち起し、表土を軟くしてから種を播く。種播き前の基肥施用及び堆肥等種子を覆ふ事は前に同じ）種播後十日内外に水稻の收穫が可能場合は稻の必要が無いが、それ以上長いあひだ小麥が水稻間にある事は結果が良くない。水稻收穫後は、不整地播きの如く、稻株りとか培土等の作業を行ふ。